

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

平泉町長 青木 幸保

市町村名 (市町村コード)	平泉町 (03402)
地域名 (地域内農業集落名)	平泉地区 (下徳沢、坂下、窟、滝の上、東沖、山岸、北沖、髭石、熊野前、要害、善阿弥、日照田、八日講、更の上、竹汀、金堀沢、萱田、一筋、福養、下谷起、上館裏、下館裏)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年12月16日 (第3回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

集落営農組織が無く、組織的な活動が不活発である。
区画の小さな田が多く、小規模兼業農家がほとんどのため、受け手が出てこないし、地域の中心となる担い手がない。
中山間地で圃場条件の制約もあり労力を多く要するが、後継者が不足し、また、農地の利用集積が困難な地域である。また、鳥獣被害も多く農業に対し希望も持てない。
小規模農家も多く、個々で機械を所有するため生産コストが高い。
鳥獣被害も多く、農業に希望が持てず、受け手が出てこない。

(2) 地域における農業の将来の在り方

新規就農をはじめとする農業の担い手や労働力の確保を行い、持続的な農業経営を実践し農業所得の増大を目指す。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	370 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	370 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	- ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農業振興地域農用地区域内の農地及びその周辺に所在する農地を農業上の利用が行われる区域とすることを基本とし、保全及び管理が行われる区域については、地域の実情に合わせて、検討する。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
認定農業者など農業の担い手に対し、農地集積・集約化を進めるため、農地中間管理事業を積極的に活用していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農地中間管理機構を活用し、行政・農業委員会等の関係者間で協力体制を構築しながら担い手の経営意向を考慮し段階的に集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
実施済み
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
新規就農者が営農しやすいよう、町・県・JAの相談体制の構築や環境整備を図るなど、確保から定着までに向けた取組を展開する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
効率化が見込める作業は委託の可否を検討し、遊休農地の発生防止を図る。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input checked="" type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①補助事業を活用して鳥獣対策として電気柵の設置を随時行っていく。既存の電気柵については、補修・定期的な見回りを行い維持管理を行っていく。引き続き鳥獣被害対策を集落での話し合いを進めながら取り組んでいく。多面的機能支払交付金を活用し、対象農用地に設置した柵の維持管理を行う。
- ⑤果樹栽培に取組み、農業所得拡大を進めていく。
- ⑦農地保全、施設等の維持・管理についてはこれまでどおり地域一体で取り組んでいく。多面的機能支払交付金を活用し、農地の維持管理を続けていく。地域内多面的機能支払活動組織 平泉地区:6組織
- ⑧新規就農者へ既設のハウス等農業用施設を活用した施設栽培を提案する。
- ⑨飼料作物の取組を維持するとともに、農地の集約化等による栽培作業の効率化を図る。